



CNNスペシャル・
インタビュー



Having Her Say

全米オープン2度目の優勝

大坂なおみ

あなたが受け取ったメッセージは

2020年の全米オープンテニスの女子シングルスで優勝を果たし、自身3度目のグランドスラム制覇を成し遂げた大坂なおみ選手。しかし、今回彼女が注目を集めたのはアスリートとしての側面だけではなく、全米で大きなうねりを見せる人種差別反対の動きに共鳴し、その犠牲者の名前を記したマスクを7種類用意して、一回戦から決勝戦に至るまで着用、抗議の意思を明確に示したのである。CNNが、そのマスクに込めたメッセージについてインタビューした。



■ドン・リデル

1972年、エディンバラ生まれ。ニュースアンカー兼スポーツジャーナリスト。英リーズ大学で学位取得。2002年にCNNに入局以来、世界各地でスポーツ関連の取材を行い、タイガー・ウッズやロジャー・フェデラー、フロイド・メイウェザーなど、名だたるトップアスリートたちにインタビューを行ってきた。現在は、CNNの「ワールドスポーツ」のアンカーと「リビング・ゴルフ」のホストを務める。



■大坂なおみ

1997年、大阪府大阪市生まれ。ハイチ出身の父と日本人の母を両親にもつ。3歳から米国に暮らし、テニスを始める。2014年、16歳で出場した「バンク・オブ・ウェスト・クラシック」の一回戦で、元全米オープン王者のサマンサ・ストーサーに勝利し、一躍注目を浴びる。その後躍進を続け、2018年、全米オープン優勝。翌年には全豪オープンでも優勝。2020年の全米オープン優勝でグランドスラム3勝目を挙げた。

59 マスクに記した7人の名前

It's been 25 years here at the US Open since a woman has dropped the first set in the women's singles final and come back to win it all. Naomi Osaka did just that.

But then again, this tournament has been anything but ordinary for the 22-year-old. At the beginning of this year's US Open, she made a bold proclamation to the world. She had seven names on seven masks. Each was a victim whose death sparked outcries for social justice and racial equality; seven the number of matches it would take for her to reach the final, and she did just that. An enormous amount of pressure and an important message for Osaka, who is both Haitian and Japanese.

have one's say:

《タイトル》自分の意見を言う

the US Open:

全米オープンテニス選手権大会、全米オープンテニス
▶テニスの4大国際大会の1つで、毎年8月最終月曜日から2週間の日程でニューヨーク市郊外のテニスセンターで開催される。

drop:

(試合のセットなどを)落とす

final:

決勝戦

come back to win it all:

逆転勝ちで優勝する

▶win it allで「優勝する」という意味。

but then again:

しかしよく考えると、とはいえ

be anything but:

決して～ではない

ordinary:

普通の、いつも通りの

make a proclamation:

宣言する

bold:

大胆な、冒険的な

spark:

～の引き金となる、～を引き起こす

outcry:

激しい抗議、抗議の声

social justice:

社会的正義、社会的公正

racial equality:

人種的平等

match:

試合

reach the final:

決勝に進出する ▶「決勝に進出するために必要な勝利の数」が7つと言っているが、実際は決勝が7試合目で、決勝に進むのに必要な試合数は6つ。

an enormous amount of:

途方もない～

この全米オープンテニスという場においては25年ぶりです、女子選手が女子シングルス決勝で第1セットを落としてから逆転勝ちで優勝するのは、大坂なおみ選手はまさにそれを成し遂げました。

ただ今大会は22歳の大坂選手にとって特別なものでした。今年の全米オープン開幕時、彼女は世界に向けて大胆な宣言をしました。7枚のマスクに7つの名前をつけたのです。その名前は、それぞれの死が社会的公正と人種的平等を求める抗議を引き起こすことになった犠牲者のものであり、7とは決勝に進出(して優勝)するために必要な勝利の数でした。そして、彼女はまさにそれを成し遂げました。それは計り知れないプレッシャーであり、重要なメッセージでした、ハイチ(系アメリカ)人であり日本人でもある大坂選手にとって。